



鶴嶺東スクラム③ まちぢから

発行責任者：鶴嶺東まちぢから協議会 会長 小室正明

助かる命は安否確認から 防災研修会が開催

鶴嶺東地区まちぢから協議会 会長 小室正明

平成29年度は各部会がそれぞれの立場で活動してきましたが、平成30年1月19日には、「防災研修会」として全体研修会が実施されました。当日は、まちぢから協議会の委員はもとより地区内の防災リーダー、民生委員の皆さんも加わり、およそ80名の参加のもと、鶴嶺東地区まちぢから協議会小室会長より、円蔵自主防災訓練を通して見えてきた問題点等の講話がありました。

防災は私達の生命、財産の安全確保に係る大切な課題なので、本紙上ではその要旨をご紹介します。

地震等の大規模災害時には、消防署等公的機関による活動にも限界があり、地域住民の助け合いが減災の大きな力になることは、阪神大震災、東日本大震災をはじめ多くの災害を通して明らかです。



そこで、「助かる命」は、「安否確認」

からということの大切さを改めて再確認したいと思います。災害に遭った時は、まずは自助努力で自身、家族の安全を確保し、そのうえで近隣の被災者への共助になります。【助かる】から【助けられる】です。しかしながら、これには限界があり、一刻も早く公的支援などに繋げないと、生命・財産の保全が危ぶまれることが考えられます。そこで、正確な安否確認とその連絡方法などを真剣に取り組む必要があるといえます。とはいえ、現状には大きな壁があります。茅ヶ崎市では、平成29年に従来の自己申告による「災害時要支援者制度」から、一定の基準のもと避難行動要支援者



を頂いている方々(市内全体の要支援者約11,600人の内同意者は約5500人の47%)への安否確認などに限られてしまうなど難しい面があります。そこで相互協力が求められる場面では、顔の見える関係づくりなどがとても大切です。自治会加入の重要性を再確認し、このことがも迅速な安否確認につながり、ひいては真に必要な公的援助の要請につながる要となると考えます。こうした課題は、これからも「まちぢから協議会」の趣意に沿って市と地域とで協働し解決していきたいと思えます。



この後、質疑応答のなかでは、
● 防災リーダーの活動 ● 地区全体の防災訓練と単位自治会での防災訓練 ● 避難所設営 ● 避難所や広域避難場所への経路などについて質疑応答、意見交換がなされました。



説明する小室会長

とす「避難行動要支援制度」をスタートしました。この制度は地域での助け合い(共助)によって、災害時に一人でも多くの命を救うことを目的とした制度です。自治会や自主防災会では、防災訓練などで安否確認を実施していますが、自治会に加盟している世帯や避難行動要支援者の方へ平時からの情報提供への同意

平成29年度の活動を振り返って

鶴嶺東地区まちぢから協議会各部会より

【環境安全部会】

部会長 森谷義明



昨年度は安全を取り上げ、道路の安全施設、道路の切り下げ、擦り付け等、下町屋、ホームタウン、浜之郷等の地域に市職員と安全環境部会とが立会をし

ながら、いろいろと勉強させていただきました。その結果、7箇所の改善がなされました。平成29年度は、最初の部会の話合いで、環境のことについて勉強することになりました。平成29年11月17日に環境に関連した市職員の方々と勉強会、特に話題となったことは次のとおりでした。

【質問】ゴミの袋に赤い紙を貼った収集しないゴミについて、いつでも門前に置いてあるため、一日も早い収集をお願いしたい。

【回答】収集をしないゴミ、出し

てはいけないものに、赤い紙を貼り間違えてゴミを出した人に知らしめるために、一週間程度放置しその後、回収をしております。

【質問】生ごみ、資源ごみについて、何軒集まれば置き場の設置が出来ますか？

【回答】生ごみについては8軒、資源ごみについては30軒程が必要となります。特殊な地域はありますが一般的には、これで指導しております。

【質問】今後の何か計画は、考えておりますか？

【回答】現在、ゴミの有料化について各地域に説明をしています。

【防災減災部会】

部会長 増森鉄兵



今年度は、6月16日と9月15日の二回部会が開催されました。

6月の部会においては、各自治会として防災活動推進のための

問題点の洗い出しとその対策について話合いました。

指摘された問題点は次のとおりです。

①防災マニュアルが一般的抽象的で具体的行動に繋がるか、また、自治会員への配布が行き渡っていない。

②マニュアルが大震災の対策が主で、台風、水害、大火災時の対応になっていない。

この認識のもと、地域の現状把握に努め、実情に即した防災マニュアル作成と自主独立の防災組織を目指すこととしました。9月の部会においては、6月に話し合った対策等の進捗確認作業と、今年度の防災訓練の目標を確認しました。今年度は、

- ① 安否確認
- ② 新制度の「避難行動要支援者」の共同訓練
- ③ 安否確認に必要な備品の有効的な購入。

【青少年育成部会】

部会長 馬場信行



青少年育成部会は、青少年推進協、小中学校の保護者会、子ども会の代表が、それぞれの課題について情報共有し意見交換をしながら子ども一人ひとりの健全育成のため、話し合ってきました。学校の登下校の安全対策については、自転車の事故やマナーの悪さなど、小中学校では市の交通安全教育が行われているが、高校では行われていない現状や、地域の見守り隊の安全の確保に至るまで話し合いました。また、子供会の会員数の減少については他の地域の現状や課題、先進地域の取り組みを知りたいなど、子ども会の意義やこれからの活動について活発な意見交換がなされてきました。これからも、地域の子ども達が安全で安心して暮らせる環境を創り、地域で子どもを育てることを目的に、青少年育成部会は、積極的に他機関と連携し、子ども一人ひとりが笑顔で暮らせる環境を実現出来るように邁進していか

なければならぬと思えます。

【地域福祉部会】

部会長 藤崎雅也



地域福祉部会の活動も一年半を過ぎました。途中でメンバーの変更など変化はありましたが、円蔵・西久保・下町屋・ホームタウン、サー・タウン・矢畑・TBS・アイランド各自治会から選ばれた福祉世話人と地域包括支援センター・福祉相談室・ボランティアセンター・地区社協の方々で活動してきました。29年度は【サロンによる地域の活性化】を目標に各地域の活動状況を報告し合うことで情報交換しながら、又お互いのサロンに参加しながら自分たちの活動に活かしていきます。サロンの内容は各メンバーから報告を受け、各サロンの開催日、時間、参加費等を共有して、また協力しながら活動した一年でした。打ち合わせの中で一番感じたことは、自治会の支援金額はまちまちですが、各サロンとも工夫しながら活き活き活動していることです。